



Vol. 563 令和3年9月

# NEWS



## NPO 法人 横浜発明振興会

### 今月の行事

#### 9月「ハマ発明教室」オンライン開催

今月も引き続き新型コロナウイルス感染症策として、オンラインで開催します。

と き 令和3年9月12日(日)

午後12時45分入室開始

(1時15分までに入室して下さい)

開 始 1時30分～ 4時30分終了

と ころ ZOOMオンライン上に集合

◎ZOOM参加のURLは、当会ホームページ「会員専用 ハマ発明教室オンライン参加案内」(パスワードあり)に掲載しています。記載のURLをクリックし、参加して下さい。

◎また、メールアドレス登録済の方には、メールでお知らせします。(再連絡希望の方は、当会アドレス

info@yokohama-hatsumei.com へご連絡を)

内容 第1部：作品発表とディスカッション

第2部：発明研究会

テーマ：「インターネット出願講座 第2回」

講 師：小林 芳人氏、大庭 實氏

#### 10月のハマ発明教室 予告

と き 令和3年10月10日(日)

午後1時30分～4時30分

と ころ 横浜市青少年育成センター 研修室

第一部 ハマ発明教室発表作品展示  
コンクール

第二部 発明研究会

#### 特許料、来年度上げ

最大5500円 中国文献増で審査費膨張

知的財産の保護に必要な特許料が2022年度に上がる。1件あたり年間最大5500円の引き上げを予定しており、1993年度以来29年ぶりの増額になる。中国での特許出願と文献の急増に伴い、特許庁による審査のコストが膨張していることが背景にある。財務面の改善につなげる狙いだが、企業にとっては負担が増える。

特許料は登録から原則20年特許を維持するためのお金で、発明者や企業が国に毎年納めている。最初の9年間は3年きざみで基本料金が決まっており、現在は2100円から1万9300円だ。22年度からはこれを4300円から2万4800円に改定、7～9年目までの上げ幅が5500円と最も大きくなる。

今回の引き上げによって、例えば10年間特許を維持する場合、基本料金だけで計3万8800円の負担増となる。特許庁は料金を定める政令を9月にも改正する。

特許制度は特許料などを収入源に国の特別会計で収支をやりくりする。だがこれまでのシステム投資や庁舎改修などが重なって会計上は実質赤字が続く。剰余金を取り崩して運営するが、2010年には2000億円前後あった剰余金も21年度末に276億円にまで減少する見込み。料金改定を含めた収支改善策が課題になってきた。

近年の審査コストの増加も背景にある。出願された技術の新しさは特許庁が世界中の文献を調べて確かめるが、関連文献は世界で10年の138万件から19年に360万件まで増えた。

特に中国関連の文献は270万件と9年で5倍以上に増え、世界全体の7割を占める。人工知能(AI)をはじめ高度で専門的技術の分析の増加も加わって、審査の経費も2割以上膨らんでいる。

(日本経済新聞8月9日)

## 第628回オンライン・ハマ発明教室

(日曜発明教室)報告

ZOOMにより8月8日(日)に開催しました。

出席者 14名

### ○第一部 作品発表

作品名

発表者

- ① 落葉ピックツール 中丸 和行氏

(楽に摘める落葉専用清掃具)

- ② 後続車両へのメッセージ 大庭 實氏  
ボード

- ③ プランター家庭菜園用 鋸屋 卓明氏

「なめくじキャッチャー」改訂版+α(専用漏斗)

○投票の結果、次のように賞が決まりました。

『最優秀賞』 6票

- ① 落葉ピックツール 中丸 和行氏  
(楽に摘める落葉専用清掃具)

植木鉢の隅、隣地との隙間の落葉を楽に摘める  
落葉専用ツールの提案

箒や熊手で植木鉢の隅や隣地の隙間に溜まった  
落葉を清掃する手間を少なくし、足腰へ楽に摘  
まめる落葉専用清掃ツールの提案です。

ストック使用感覚にて落葉を摘み処分まで、腰  
をかかめずに清掃作業ができ、腰痛対策にも有  
効と思われます。

椿の花柄、清掃時の状況



落ち葉専用ツールの機能

- ① 片手で操作ができ、安全で軽量の本体にて足腰の負担を少なくする。
- ② 落葉種類、花柄を選択して回収できる。(回収落葉の再利用対応)
- ③ 植木鉢の隅や隣地の隙間等の落葉も障害物を移動することなく清掃できる。

④ ツールは特別なメンテナンスが不要である。

⑤ 清掃回収した落葉は適切に再利用できる。

(目的の落葉を選択回収)



落葉清掃姿勢



隅の落葉清掃対応



隣地の隙間落葉清掃

『奨励賞』

- ② 後続車両へのメッセージ 大庭 實氏  
ボード



メッセージ表示方法として、文字/図柄を

a)流す、b)静止点灯 或いは、c)点滅のいずれか、もしくは、その組み合わせが考えられる。

自動車の運転中に、レーン変更や車列への割り込みをした時に、後続車両に謝意を表す方法として、よくハザードランプを短時間点滅することがある。(一般的に、サンキューハザードと呼ばれる行為)ただ、この方法は、後続車のドライバーが、前方の車に何らかの異常事態が発生した、或いは、嫌がらせかもしれないと誤解する可能性があり、自動車運転マナーから好ましい行為とはいえない。一方で、前方のドライバーとしては、道を譲ってくれた謝意を何らかの形で、後続車のドライバーに伝えたいとの気持ちも大きいことから、運転席のON/OFFスイッチの操作で、後続車に向けた謝意のメッセージを表示するシステムを考案したものである。

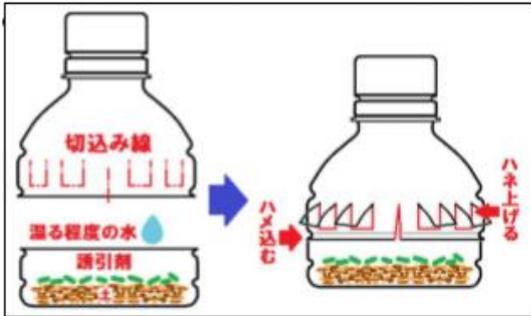
この種のコミュニケーションツールにより、

ストレスの多い運転にいくばくかの心を和ませる効果があり、交通安全に寄与することを期待したい。

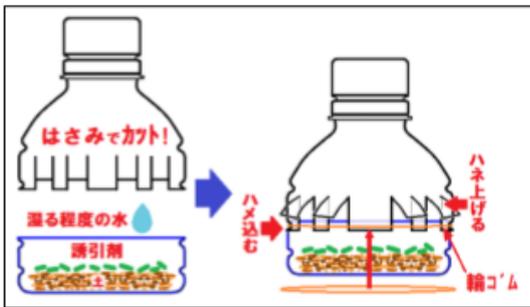
③プランター家庭菜園用 鋸屋 卓明氏  
「なめくじキャッチャー」改訂版+α(専用漏斗)

図面

【旧：1月発表時：カッターによる窓を切出し】



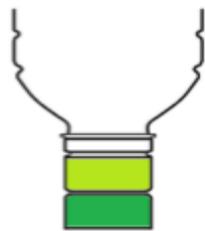
【新：はさみで、全てカットする】



【+α改善】

- ・専用漏斗を「ペットボトル」で製作!
- ・ペットボトルの蓋を2つを、
  - ① 瞬間接着剤で張り合わせ
  - ② 穴を開ける! (半だごてが簡単!  
または、焼いた金串、ドリル等)

【誘引剤投入時の形】



これにより、輪ゴムで止めた成形後に、「誘引剤」「土」等を入れることが出来、準備が楽に!

## 第二部 発明研究会

### (1)「インターネット出願・初回講座」

小林芳人氏



インターネット出願は、電子証明書・電子署名などの技術を用いたオンライン電子出願のサービスです。インターネット出願のメリットは、例えば弁理士に出願依頼をすれば手数料が約 30 万円かかる。しかし、自分で出願ができれば出願料は 1 万 4 千円で済む。また、インターネット出願支援専用ソフトで図面の取り込みや書類作成ができる。当会では 3 名の会員がインターネット出願を利用されている。インターネット出願を利用する際、パソコンに所定のソフトをインストールするなどの事前準備とその手間がかかりスキルの習得が必要である。そこで、会員が個人パソコンではじめてインターネット出願を行うスキルについて、特許庁のホームページに記載されている作業内容について要点を絞って作業ステップ毎に簡潔にまとめた資料を用いて作業手順を教えていただいたので、以下に列挙します。

#### 1. 事前準備

- a) 「マイナンバーカード」を取得する。
- b) 「IC カードリーダー」をパソコンにつなぎドライバをインストールし、マイナンバーカードをセットして電子証明書（公的個人認証）を作成。
- c) 申請人利用登録をすることによって新規にアラビア数字 9 桁の「識別番号」を取得する。
- d) 「インターネット出願ソフト」のセットアップ。『電子出願ソフトサポートサイト』でダウンロード請求を行う。請求後、特許庁からダウンロード URL の通知メールが届くので、その後インストール環境設定を行う。

#### 2. 出願書類の作成

- e) 文章を作成(ひな形参照、HTML 型式)。
- f) 図面を JPEG で作成。g) 文章に図面を挿入。

#### 3. 出願書類送信等

- h) インターネット出願ソフトを起動する。
- i) 書類ファイルをインターネット出願ソフトに取り込む。j) エラー修正。k) 送信。l) 納金。

#### 4. 上記 1. の事前準備の作業手順

特許庁ホームページ (<https://www.jpo.go.jp/index.html>) に入って、画面表示に従って必要な操作を順次以下の手順で進める。

#### 4-1) 特許庁 HP の『ホーム』より、

- ① 「目的から探す」をクリック。



S 2

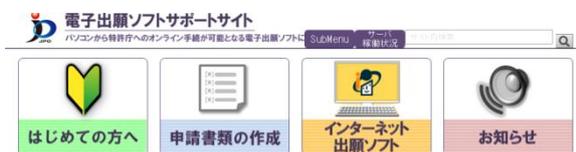
- ② 「出願したい」をクリック。
- ③ 「電子出願」をクリック。
- 4-2) 『事前準備』より、
  - ④ 「電子出願の事前準備」をクリック。
  - ⑤ 「PC 機器等の準備」をクリック。

Win10 パソコンの所有及びインターネット接続環境、その他の電子メールアドレスや Word ソフト、作図ソフト (Visio 等) の所有確認実施。

- 4-3) 『電子出願の事前準備』より、
  - ⑥ 「申請人利用登録」をクリックする。
  - ⑦ 「電子証明書の取得」をクリックし、電子証明書を取得する。
- 4-4) 『電子出願サポートサイト』 (<http://www.pcinfo.jpo.go.jp/site/index.html>) の『申請人情報・証明書管理ツール』より、
  - ⑧ 「識別番号」を取得する。



- ⑨ 「インターネット出願ソフト」をクリック。



- ⑩ 「ソフトのダウンロード請求」をクリックし、受信確認後、「使用許諾書」に同意する。
- ⑪ 「インターネット出願ソフトの入手」をクリックした後、「指定の URL」をクリック。
- ⑫ Ver[i4.20] をダウンロードし、電子証明書の取得」をクリック。

⑬ 「JPOi420-DL.exe ファイルを開く」をクリックし、電子出願ソフトをダウンロードする。以上の手順で作業することで、以後「申請書類の作成」及び「電子出願」を進めることができる。

講演最後に、インターネット出願経験のある大庭實氏から本人認証などのデモンストレーション (省略) 及び経験談や対処にまつわる話をいただいた。例えば、出願書類作成で一番厄介なのは図面や明細書を作成した後、チェック機能を働かせるとエラーが必ず出る。それを何回か繰り返しているうちに出願までに 1 週間以上かかってしまった。そこで発明協会に持ち込んでインターネット出願を始めたが発明協会の作業を横目で見ている自分にもできることがあると考え、拒絶通知や補正書類、年金の支払い書類を自分で作成し、1 時間から 2 時間ぐらいで行うことができた。以上のことから、インターネット出願を利用するメリットがあるとのことでした。

## ○未来技術遺産 新たに 24 件

磁気録音テープ・プラネタリウム・GPS 内臓腕時計…

国立科学博物館は 1 日、科学技術の発達の歴史で大きな意義がある重要科学技術史資料 (未来技術遺産) に、日本初の磁気録音テープや国産初の完全投映式プラネタリウムなど 24 件を新たに登録すると発表した。2008 年度から始まった登録は計 325 件となる。

日本初の磁気録音テープは、東京通信工業 (現・ソニーグループ) の「Soni-Tape シリーズ」(1950 年)。データ記録が社会基盤を支えていく応用につながる技術の始まりと評価された。太陽誘電が商品化した最初の「CD-R」(89 年) も選ばれた。

また、星から船の位置を測る練習にも使われた五藤工学研究所の国産初の完全投映式プラネタリウム「M-1」(65 年) や、ミノルタカメラ (現・コニカミノルタプラネタリウム) の中型プラネタリウム「MS-10」(66 年) も選ばれた。

家電では、露光調整を自動化してアマチュアでも手軽に使えるようにしたキヤノンの一眼レフカメラ「AE-1」(76 年) や、世界で初めて GPS を内蔵したカシオ計算機のアウトドアウォッチ「サテライトナビ PRT-1GPJ」(99 年) も登録される。

(朝日新聞 9 月 1 日夕刊)